

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ET46J016	臨床心理面接特論 (心理支援に関する理論と実践) (Special Seminar (I) on Clinical Interview(Theory and Practice of Psychological Support))					臨床心理学						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	大学院教育学研究科			氏名 渡辺 亘 E-mail wwata@oita-u.ac.jp 内線 7585						
授業の概要	臨床心理士の主要な活動の一つである面接による心理支援(心理療法)に関して、諸学派の違いを超え共通して存在する基本的理論および技法を習得することを目的とする。また、事例等の臨床素材による討議を行い、心理療法で必要とされる専門的な視点・姿勢を具体的かつ体験的に学習する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	心理療法の実践に必要なとなる基本的な理論・技法・姿勢などを理解できる。											
目標2	心理療法の目的・意義・独自性・専門性を説明できる。											
目標3	心理療法の効用と限界を説明できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	心理療法の定義											
2	心理療法の歴史											
3	心理療法の目的と意義											
4	心理療法の方法											
5	心理療法の諸派(力動論・行動論・その他)											
6	心理療法のプロセス(初期・導入期)											
7	心理療法のプロセス(中期・展開期)											
8	心理療法のプロセス(後期・終結期)											
9	問題や状況に応じた方略の選択・調整											
10	助言・指導等との関係											
11	臨床素材に基づく討議1											
12	臨床素材に基づく討議2											
13	臨床素材に基づく討議3											
14	心理療法の効用と限界											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義に基づき、心理専門職としての職能及び自らの課題に関する省察・言語化・発見を促すことを目的として毎回のレポートを課し、それに対する指導を行う。また、心理療法の事例にふれることで、より実践的な活用のあり方について理解を深める。	工夫 その他	映像等の視覚的な資料を用いて具体的な学びをすすめる。								
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	関連する文献・資料を読み、各回の内容について予習する。約1時間。										
	事後 学修	各回の内容について、レポートを課す。約1時間。										
教科書	「新版 心理臨床家の手引き」 鐘幹八郎他(編) 誠信書房											
参考書	「臨床心理学全書」 誠信書房 「臨床心理学大系」 金子書房 他											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業や討議への積極的な参加	40%										
	レポート	60%										
注意事項	各回レポートを課す											
備考	本科目は臨床心理士受験資格取得に関する必修科目である。臨床心理士受験資格取得のための必修科目については、別に配付する資料に基づいて履修すること。また、公認心理師受験資格取得のために必要な科目でもある。											
リンク	URL											